

平成19年度 定期作況報告

(11月20日現在 年間とりまとめ)

北海道立中央農業試験場

水稻の部

I 気象概況

水田・転作科(岩見沢市)

本年の根雪終日は4月18日で平年並、晩霜は5月3日で平年より2日遅かった。

- 4月：平均気温は 5.5℃で平年より0.6℃低く、降水量は平年の 88%、日照時間は平年の106%であった。
- 5月：平均気温は12.1℃で平年並、降水量は平年の 87%、日照時間は平年の 91%であった。
- 6月：平均気温は18.6℃で平年より2.2℃高く、降水量は平年の 87%、日照時間は平年の119%であった。
- 7月：平均気温は18.9℃で平年より1.5℃低く、降水量は平年の 38%、日照時間は平年の131%であった。
- 8月：平均気温は22.6℃で平年より1.0℃高く、降水量は平年の 66%、日照時間は平年の111%であった。
- 9月：平均気温は18.1℃で平年より0.9℃高く、降水量は平年の127%、日照時間は平年の 82%であった。
- 10月：平均気温は10.5℃で平年より0.3℃低く、降水量は平年の 70%、日照時間は平年の109%であった。

本年の降雪初日は11月16日で平年より19日遅かった。
 以上農耕期間の5月から9月についてまとめると、気温は7月で平年より低く、他は平年並から高めに推移した。
 日照時間は、農耕期間中平年より多く推移した。降水量は9月が平年より多く、他は特に7月で平年より少なく推移した。5月から9月までの積算値では、平均気温は45℃高く、日照時間は平年の106%、降水量は78%であった。

気象表

岩見沢試験地 (アメダス岩見沢)

月	旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			日照時間 (h)			降水量 (mm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4月	上旬	3.7	3.4	0.3	7.1	7.6	△ 0.5	0.3	-0.8	1.1	42.2	58.4	△ 16.2	10.5	13.9	△ 3.4
	中旬	4.1	6.6	△ 2.5	8.1	11.2	△ 3.1	0.1	2.1	△ 2.0	53.2	54.8	△ 1.6	12.5	23.1	△ 10.6
	下旬	8.7	8.4	0.3	13.9	13.4	0.5	3.5	3.3	0.2	85.2	56.5	28.7	22.0	14.0	8.0
4月平均・積算		5.5	6.1	△ 0.6	9.7	10.7	△ 1.0	1.3	1.5	△ 0.2	180.6	169.7	10.9	45.0	51.0	△ 6.0
5月	上旬	11.3	9.9	1.4	16.2	14.9	1.3	6.4	4.8	1.6	49.5	66.1	△ 16.6	29.0	41.1	△ 12.1
	中旬	11.6	12.3	△ 0.7	15.8	17.3	△ 1.5	7.4	7.3	0.1	40.3	64.6	△ 24.3	22.0	32.3	△ 10.3
	下旬	13.4	13.9	△ 0.5	19.0	18.8	0.2	7.8	9.0	△ 1.2	90.1	66.2	23.9	33.0	23.1	9.9
5月平均・積算		12.1	12.1	0.0	17.0	17.1	△ 0.1	7.2	7.1	0.1	179.9	196.9	△ 17.0	84.0	96.5	△ 12.5
6月	上旬	17.1	14.3	2.8	22.1	19.0	3.1	12.2	9.7	2.5	93.0	62.0	31.0	7.5	25.1	△ 17.6
	中旬	19.4	16.6	2.8	24.9	21.2	3.7	13.9	12.0	1.9	89.2	60.4	28.8	39.0	11.6	27.4
	下旬	19.3	18.2	1.1	23.0	22.6	0.4	15.5	13.8	1.7	36.7	61.9	△ 25.2	4.5	22.2	△ 17.7
6月平均・積算		18.6	16.4	2.2	23.3	20.9	2.4	13.9	11.8	2.1	218.9	184.3	34.6	51.0	58.9	△ 7.9
7月	上旬	18.8	18.6	0.2	23.9	22.4	1.5	13.6	14.8	△ 1.2	73.0	45.9	27.1	7.0	46.8	△ 39.8
	中旬	16.8	20.4	△ 3.6	19.8	24.2	△ 4.4	13.8	16.6	△ 2.8	35.6	45.6	△ 10.0	14.5	38.6	△ 24.1
	下旬	20.6	21.9	△ 1.3	25.4	25.8	△ 0.4	15.9	18.1	△ 2.2	82.6	54.7	27.9	31.0	51.0	△ 20.0
7月平均・積算		18.9	20.4	△ 1.5	23.2	24.2	△ 1.0	14.5	16.6	△ 2.1	191.2	146.2	45.0	52.5	136.4	△ 83.9
8月	上旬	23.1	22.7	0.4	26.2	26.4	△ 0.2	20.0	19.0	1.0	19.6	51.3	△ 31.7	72.0	59.3	12.7
	中旬	23.5	21.3	2.2	28.3	25.1	3.2	18.7	17.5	1.2	66.3	51.5	14.8	27.0	30.4	△ 3.4
	下旬	21.3	20.8	0.5	26.6	24.7	1.9	15.9	16.9	△ 1.0	85.7	51.6	34.1	0.5	60.6	△ 60.1
8月平均・積算		22.6	21.6	1.0	27.0	25.4	1.6	18.1	17.7	0.4	171.6	154.4	17.2	99.5	150.3	△ 50.8
9月	上旬	18.2	19.5	△ 1.3	21.9	23.8	△ 1.9	14.6	15.2	△ 0.6	32.8	55.8	△ 23.0	52.0	33.5	18.5
	中旬	19.6	17.1	2.5	22.9	21.4	1.5	16.3	12.7	3.6	37.5	50.1	△ 12.6	63.5	44.1	19.4
	下旬	14.6	14.9	△ 0.3	19.9	19.6	0.3	9.4	10.2	△ 0.8	59.9	53.8	6.1	39.5	44.2	△ 4.7
9月平均・積算		17.5	17.2	0.3	21.6	21.6	0.0	13.4	12.7	0.7	130.2	159.7	△ 29.5	###	121.8	33.2
10月	上旬	14.1	13.0	1.1	19.4	17.5	1.9	8.8	8.4	0.4	62.6	46.6	16.0	27.0	46.5	△ 19.5
	中旬	8.9	10.8	△ 1.9	13.2	15.5	△ 2.3	4.6	6.1	△ 1.5	45.1	49.3	△ 4.2	39.5	32.4	7.1
	下旬	8.7	8.7	0.0	12.6	12.9	△ 0.3	4.8	4.5	0.3	46.7	46.3	0.4	13.5	35.0	△ 21.5
10月平均・積算		10.5	10.8	△ 0.3	15.0	15.2	△ 0.2	6.0	6.3	△ 0.3	154.4	142.2	12.2	80.0	113.9	△ 33.9

農耕期間積算値(5月～9月)

区別	平均気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
本年	2725	442	892
平年	2680	564	841
比較	45	△ 122	51

季節表

区別	根雪始	根雪終	降雪終日	耕鋤始	晩 霜	初 霜	降雪初日
本年	H18. 12.1	H19. 4.8	H19. 4.14	H19. 5.7	H19. 5.3	H19. 10.16	H19. 11.16
平年	11.27	4.9	4.17	4.30	5.2	10.19	10.28
比較	4	△ 1	△ 3	7	1	△ 3	19

注1) データは「アメダス岩見沢」を使用した。平年値は10か年の平年値(1997～2006)を農試が算出した。

注2) 平均気温は日最高気温と日最低気温の平均値である。

注3) 最高・最低・平均気温は期間内の平均値、降水量・日照時間は期間内の積算値である。

地から

推定した。

II 作 況

水稻 著しい不良

平成19年11月20日(最終)

事由：本年は融雪が若干早かったが、4月下旬から5月上旬の降雨により圃場作業は遅れた。播種は平年より2日早い4月17日に行った。播種後の天候は恵まれたものの、5月に入り日照時間が少なく、同中旬は気温も低かったため、移植時の苗は草丈は低く、葉令もやや劣った。

移植は平年並の5月21日に行った。移植後は好天に恵まれ、茎数が平年比180%前後と多く、生育は進み、幼穂形成期が平年より4日～3日早かった。しかし、7月中旬および下旬は著しい低温となり、生育が遅れ出穂期はほぼ平年並みとなった。また、障害型冷害による不稔の増大が懸念された。8月に入り天候が回復したため、登熟が大幅に進み、登熟期間が平年より10日短かった。

成熟期における穂数は、出穂前に茎数を多く確保したことにより、平年比120%前後と多かったものの、一穂粒数は平年比76～79%と大幅に少なく、稔実歩合も若干低かったため、㎡当たりの稔実粒数は平年比94～89%と少なくなった。登熟歩合は平年を上回り、屑米歩合も平年の半分以下であったものの、千粒重が平年より2.3～2.1gも軽かった。そのため、精玄米重は「きらら397」で平年比92%、「ほしのゆめ」で84%と大幅に下回った。病害虫による被害は無かった。

以上により、本年の作況は著しい不良である。

注1) 作況指数(収量平年比)と作柄の判定基準(水稻、農林水産省の統計基準)

作況指数	90～	91～94	95～98	99～101	102～105	106～
作柄	著しい不良	不良	やや不良	平年並	やや良	良

品種名		きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年
項目 \ 年次								
播種期	(月.日)	4.17	4.19	△ 2	4.17	4.19	△ 2	4.17
移植期	(月.日)	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	5.21
幼穂形成期	(月.日)	7.04	7.08	△ 4	7.02	7.05	△ 3	6.29
止葉始	(月.日)	7.19	7.23	△ 4	7.18	7.21	△ 3	7.16
出穂期	(月.日)	8.03	8.04	△ 1	8.03	8.03	0	8.01
成熟期	(月.日)	9.12	9.23	△ 11	9.10	9.20	△ 10	9.12
穂揃日数	(日)	6	6.6	△ 0.6	6	7.8	△ 1.8	6
出穂迄日数	(日)	108	107	1	108	105	3	106
生育日数	(日)	148	156	△ 8	146	154	△ 8	148
草丈 (cm)	移植時	9.2	10.5	△ 1.3	10.0	11.0	△ 1.0	9.5
	6月20日	27.7	23.2	4.5	29.2	25.5	3.7	30.3
	7月20日	56.5	55.8	0.7	60.0	58.2	1.8	63.3
茎数 (本/m ²)	移植時	1.0	1.1	△ 0.1	1.0	1.2	△ 0.2	1.0
	6月20日	528	282	246	525	293	232	448
	7月20日	950	819	131	988	816	172	853
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.2	3.3	△ 0.1	3.0	3.3	△ 0.3	2.9
	6月20日	8.0	6.5	1.5	7.4	6.3	1.1	7.5
	7月20日	11.4	10.5	0.9	10.1	9.9	0.2	10.7
	止葉	11.7	11.1	0.6	10.2	10.2	0.0	10.7
稈長	(cm)	58.2	63.6	△ 5.4	61.1	66.8	△ 5.7	62.5
穂長	(cm)	15.8	16.5	△ 0.7	14.5	15.7	△ 1.2	16.1
穂数	(本/m ²)	815	684	131	873	717	156	728
一穂粒数	(粒)	39.5	50.1	△ 10.6	34.8	45.9	△ 11.1	49.2
m ² 当粒数	(百粒)	322	343	△ 21	304	329	△ 25	358
稔実歩合	(%)	81.5	83.6	△ 2.1	84.2	87.8	△ 3.6	80.7
登熟歩合	(%)	80.5	74.5	6.0	79.6	78.8	0.8	76.8
籾摺歩合	(%)	79.2	76.1	3.1	67.1	71.6	△ 4.5	78.4
屑米歩合	(%)	3.4	8.1	△ 4.7	6.1	12.9	△ 6.8	3.4
千粒重	(g)	20.9	23.2	△ 2.3	19.8	21.9	△ 2.1	20.2
わら重	(kg/a)	70.0	66.3	3.7	70.0	67.0	3.0	80.0
精籾重	(kg/a)	64.4	72.6	△ 8.2	56.6	72.4	△ 15.8	63.8
精玄米重	(kg/a)	50.8	55.1	△ 4.3	43.2	51.6	△ 8.4	50.5
収量平年対比	(%)	92.2	100	△ 7.8	83.7	100	△ 16.3	-
検査等級		1	2中	-	1中下	2中	-	2上

注1) 平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均

注2) 昨年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注3) 耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1.5t/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=180cc/箱

栽植密度 : 30×13.3cm 25株/m² 4本植え

移植方法 : 手植え

反復 : 2

注4) 刈り取り面積は一区3.6m²、精籾重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

畑作の部

I 気象概況

平成18年9月から平成19年10月までの概況は次のとおりである。

平成18年

9月：平均気温は16.9℃で平年より0.3℃低く、降水量は平年の80%、日照時間は平年の126%であった。
 10月：平均気温は10.4℃で平年より0.6℃低く、降水量は平年の79%、日照時間は平年の122%であった。
 11月：平均気温は5.0℃で平年より1.2℃高く、降水量は平年の97%、日照時間は平年の97%であった。
 12月：平均気温は-2.8℃で平年より1.0℃高く、降水量は平年の71%、日照時間は平年の102%であった。

平成19年

1月：平均気温は-4.4℃で平年より2.3℃高く、降水量は平年の80%、日照時間は平年の94%であった。
 2月：平均気温は-3.9℃で平年より1.5℃高く、降水量は平年の99%、日照時間は平年の79%であった。
 3月：平均気温は-0.8℃で平年より0.3℃高く、降水量は平年の66%、日照時間は平年の107%であった。
 4月：平均気温は5.2℃で平年より0.8℃低く、降水量は平年の77%、日照時間は平年の118%であった。
 5月：平均気温は11.7℃で平年より0.4℃高く、降水量は平年の121%、日照時間は平年の115%であった。
 6月：平均気温は17.4℃で平年より1.8℃高く、降水量は平年の59%、日照時間は平年の134%であった。
 7月：平均気温は18.0℃で平年より1.4℃低く、降水量は平年の55%、日照時間は平年の147%であった。
 8月：平均気温は22.4℃で平年より1.3℃高く、降水量は平年の81%、日照時間は平年の133%であった。
 9月：平均気温は18.2℃で平年より1.0℃高く、降水量は平年の111%、日照時間は平年の92%であった。
 10月：平均気温は10.4℃で平年より0.6℃低く、降水量は平年の59%、日照時間は平年の111%であった。

本年の根雪終日は4月12日で平年より2日早く、晩霜は4月30日で平年より1日早かった。

以上農耕期間の4月から10月についてまとめると、気温は7月で平年より低く、他は平年並から高めに推移した。日照時間は、農耕期間中平年より多く推移した。降水量は6～8月で平年より少なく推移した。4月から10月までの積算値では、平均気温は110℃高く、日照時間は平年の124%、降水量は82%であった。

農耕期間積算値

		平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～10月	本年	3,158	594	1,185
	平年	3,090	725	959
	比較	68	-131	226
5～9月	本年	2,684	528	850
	平年	2,574	584	667
	比較	110	-56	183

季節表

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	融雪剤根雪終 (年.月.日)	通常の根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)
本年	H18 10.14	H18 12.03	H19 3.26	H19 4.01	119	H19. 4.12	H19. 4.12	H19 4.30
平年	10.21	12.03	3.30	4.05	123	4.14	4.17	5.01
比較	△ 7	0	△ 4	△ 4	△ 4	△ 2	△ 5	△ 1

注) 平年値は中央農試における平成9年～18年の10年間の平均値を用いた(根雪始は平成8～17年の平均値)。

積雪期間の平年値にはうるう年を含むため、根雪始・終の差と一致しない。

気象表

道立中央農試(アメダス長沼)

年月	旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hr)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平成18年 9月	上旬	19.4	19.2	0.2	23.7	23.7	0.0	15.5	15.3	0.2	41.0	38.9	2.1	4	3.6	0.4	49.7	50.2	△0.5
	中旬	17.1	17.4	△0.3	22.6	21.7	0.9	11.9	13.1	△1.2	15.0	42.9	△27.9	3	3.7	△0.7	66.7	44.4	22.3
	下旬	14.3	15.0	△0.7	20.3	19.8	0.5	8.4	10.0	△1.6	20.0	42.0	△22.0	2	3.9	△1.9	65.6	50.1	15.5
10月	上旬	14.1	13.0	1.1	19.1	17.7	1.4	9.6	8.2	1.4	22.0	42.5	△20.5	4	4.3	△0.3	51.7	43.5	8.2
	中旬	10.4	11.0	△0.6	14.9	15.9	△1.0	4.4	5.8	△1.4	33.0	26.1	6.9	4	3.5	0.5	50.7	49.4	1.3
	下旬	6.7	9.0	△2.3	12.6	13.5	△0.9	0.5	4.2	△3.7	8.0	36.7	△28.7	2	4.8	△2.8	67.1	45.9	21.2
11月	上旬	9.8	6.7	3.1	14.0	10.8	3.2	4.7	2.3	2.4	79.0	18.4	60.6	5	4.5	0.5	34.8	37.9	△3.1
	中旬	3.4	2.9	0.5	6.9	6.6	0.3	0.1	-1.0	1.1	33.0	29.0	4.0	4	5.3	△1.3	36.1	28.8	7.3
	下旬	1.8	1.9	△0.1	5.2	5.7	△0.5	-1.4	-1.9	0.5	35.0	24.1	10.9	5	4.6	0.4	25.5	32.6	△7.1
12月	上旬	-3.3	-2.3	△1.0	-0.4	1.1	△1.5	-6.6	-6.3	△0.3	21.0	22.9	△1.9	4	4.8	△0.8	29.4	31.1	△1.7
	中旬	-2.8	-3.6	0.8	1.0	0.1	0.9	-7.2	-7.9	0.7	9.0	20.5	△11.5	3	5.6	△2.6	26.6	29.9	△3.3
	下旬	-2.2	-5.4	3.2	1.4	-1.4	2.8	-6.6	-10.5	3.9	40.0	26.2	13.8	5	6.4	△1.4	41.2	34.3	6.9
平成19年 1月	上旬	-2.6	-6.5	3.9	1.1	-2.2	3.3	-7.2	-12.1	4.9	18.5	26.3	△7.8	3	5.3	△2.3	35.1	33.3	1.8
	中旬	-6.2	-6.8	0.6	-2.1	-2.8	0.7	-10.5	-12.1	1.6	13.0	21.5	△8.5	4	4.9	△0.9	36.2	31.5	4.7
	下旬	-4.5	-6.8	2.3	-0.7	-2.5	1.8	-8.9	-12.0	3.1	23.5	22.0	1.5	6	6.1	△0.1	28.2	40.9	△12.7
2月	上旬	-3.7	-6.2	2.5	0.1	-2.0	2.1	-9.5	-11.5	2.0	21.0	16.1	4.9	3	4.6	△1.6	25.4	42.2	△16.8
	中旬	-3.9	-5.8	1.9	-0.2	-1.6	1.4	-9.3	-11.1	1.8	28.5	22.4	6.1	7	5.3	1.7	27.7	43.5	△15.8
	下旬	-4.2	-4.4	0.2	0.1	-0.1	0.2	-10.1	-10.1	0.0	6.5	20.1	△13.6	4	4.3	△0.3	47.3	41.2	6.1
3月	上旬	-1.8	-3.4	1.6	2.2	0.7	1.5	-6.4	-8.5	2.1	9.0	17.3	△8.3	1	4.6	△3.6	56.1	50.2	5.9
	中旬	-2.0	-1.0	△1.0	1.8	2.6	△0.8	-6.1	-5.3	△0.8	15.0	11.6	3.4	5	4.3	0.7	48.8	49.0	△0.2
	下旬	1.5	1.3	0.2	5.5	5.0	0.5	-2.5	-2.7	0.2	5.0	23.2	△18.2	3	4.7	△1.7	62.1	57.1	5.0
4月	上旬	3.4	3.5	△0.1	7.2	7.8	△0.6	-0.1	-0.7	0.6	7.0	9.1	△2.1	2	3.1	△1.1	38.6	52.5	△13.9
	中旬	3.6	6.4	△2.8	7.4	11.0	△3.6	0.0	2.1	△2.1	14.0	16.0	△2.0	2	3.0	△1.0	55.4	47.8	7.6
	下旬	8.5	8.0	0.5	14.3	12.9	1.4	3.5	3.3	0.2	20.0	14.4	5.6	3	3.0	0.0	84.5	50.7	33.8
5月	上旬	11.2	9.4	1.8	15.9	14.3	1.6	6.6	4.7	1.9	42.5	32.3	10.2	6	4.0	2.0	53.0	56.5	△3.5
	中旬	11.1	11.6	△0.5	15.4	16.6	△1.2	7.8	7.2	0.6	27.0	33.3	△6.3	4	3.5	0.5	47.8	52.6	△4.8
	下旬	12.9	13.1	△0.2	18.1	17.9	0.2	8.2	9.0	△0.8	38.5	23.3	15.2	3	3.2	△0.2	79.8	48.4	31.4
6月	上旬	15.4	13.7	1.7	20.1	18.3	1.8	12.3	9.8	2.5	7.5	25.7	△18.2	2	3.9	△1.9	66.6	47.9	18.7
	中旬	18.4	15.8	2.6	24.3	20.4	3.9	13.8	12.0	1.8	50.0	13.9	36.1	1	1.7	△0.7	87.9	45.8	42.1
	下旬	18.4	17.2	1.2	22.4	21.8	0.6	15.4	13.8	1.6	3.5	27.1	△23.6	2	2.9	△0.9	35.5	48.3	△12.8
7月	上旬	18.0	17.7	0.3	22.6	21.5	1.1	14.1	14.7	△0.6	5.5	44.4	△38.9	2	3.7	△1.7	59.5	35.4	24.1
	中旬	16.1	19.5	△3.4	19.0	23.6	△4.6	13.6	16.4	△2.8	12.0	34.4	△22.4	2	3.5	△1.5	34.3	34.6	△0.3
	下旬	20.0	21.1	△1.1	24.4	25.3	△0.9	15.8	18.1	△2.3	83.0	53.1	29.9	2	3.8	△1.8	75.1	44.9	30.2
8月	上旬	22.5	22.0	0.5	26.0	26.0	0.0	19.9	19.0	0.9	51.0	59.4	△8.4	6	3.2	2.8	20.0	42.5	△22.5
	中旬	23.2	20.8	2.4	28.0	24.8	3.2	18.9	17.7	1.2	14.0	35.9	△21.9	3	3.1	△0.1	68.3	42.9	25.4
	下旬	21.4	20.5	0.9	26.7	24.5	2.2	16.0	17.1	△1.1	0.0	57.6	△57.6	0	4.8	△4.8	84.2	44.0	40.2
9月	上旬	20.1	19.5	0.6	24.2	23.9	0.3	16.3	15.5	0.8	111.5	37.3	74.2	4	3.4	0.6	38.7	50.9	△12.2
	中旬	19.2	17.2	2.0	22.7	21.8	0.9	16.2	12.7	3.5	59.5	43.6	15.9	4	3.7	0.3	35.5	48.0	△12.5
	下旬	15.2	14.9	0.3	20.2	19.8	0.4	9.3	9.9	△0.6	22.5	42.3	△19.8	4	3.7	0.3	64.0	50.9	13.1
10月	上旬	13.7	13.1	0.6	19.5	17.9	1.6	8.7	8.3	0.4	16.0	36.6	△20.6	3	4.3	△1.3	62.2	43.9	18.3
	中旬	8.7	11.1	△2.4	13.5	15.9	△2.4	3.6	5.8	△2.2	9.0	26.1	△17.1	4	3.3	0.7	46.4	49.2	△2.8
	下旬	8.7	8.7	0.0	13.0	13.4	△0.4	3.8	3.8	0.0	0.0	35.5	△35.5	0	4.3	△4.3	48.1	48.0	0.1

注1) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は過去10年間を用い、中央農試で算出した。△は減を示す。

なお、データは、平成16年までは確定値、平成17年からは速報値を用いた。

確定値の最高・最低気温は、平成15年1月より測定法が変更されている。(毎正時→10分計)

注2) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

II 作況

1. 秋まき小麦(平成18年播種) やや良

平成19年11月20日(最終)

事由：台風の影響による降雨のため、播種は平年より7日遅く、出芽期も8日遅れた。秋期が比較的好天に推移したため、越冬前の11月の茎数は平年以上であった。根雪終は平年より4日早く、雪腐病による冬損も平年並みで、越冬状況は良好であった。融雪後4月中旬は低温に推移し生育が停滞したが、6月に入り高温、多照傾向となり生育は進み、平年より1～2日遅れで出穂期となった。7月は一転して低温寡雨に推移した。成熟期は「ホクシン」、「ホロシリコムギ」とも平年より2日早まった。稈長は平年より短く、穂長はやや長いが穂数はやや少なめとなった。子実重は平年と比較して「ホクシン」で10%、「ホロシリコムギ」で6%それぞれ多収となったものの、子実の充実はやや不良で、リットル重はやや軽く、千粒重も平年より軽かった。

項目	品種名 年次	ホクシン			ホロシリコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H18.月.日)	9.21	9.14	7	9.21	9.14	7
出芽期	(H18.月.日)	9.28	9.20	8	9.28	9.20	8
出穂期	(H19.月.日)	6.07	6.05	2	6.10	6.09	1
成熟期	(H19.月.日)	7.17	7.19	△ 2	7.23	7.25	△ 2
冬損程度	(0:無～5:甚)	1.6	1.3	0.3	1.3	1.0	0.3
草丈 (cm)	H18.10.20	17.0	24.2	△ 7.2	16.8	25.2	△ 8.4
	H19.5.20	53.4	51.6	1.8	55.4	55.3	0.1
	H19.6.20	97	97	0	107	105	2
茎数 (本/m ²)	H18.10.20	473	997	△ 524	543	893	△ 350
	越冬前(11月)	1349	1336	13	1458	1266	192
	H19.5.20	1396	1188	208	1536	1188	348
	H19.6.20	699	710	△ 11	643	691	△ 48
成熟期における	稈長 (cm)	88	93	△ 5	95	102	△ 7
	穂長 (cm)	9.1	8.8	0.3	9.2	8.6	0.6
	穂数 (本/m ²)	658	671	△ 13	592	603	△ 11
倒伏程度	(0:無～5:甚)	0.0	1.1	△ 1.1	1.0	2.1	△ 1.1
子実重	(kg/10a)	678	617	61	600	567	33
リットル重	(g)	796	805	△ 9	789	796	△ 7
千粒重	(g)	35.6	39.4	△ 3.8	41.6	44.2	△ 2.6
品質	(等級)	1等	2等	—	2等	2等	—
子実重平年対比	(%)	110	100	10	106	100	6

注1) 平年値は前7か年中、最凶(H12年)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH16)を除く5か年平均(収穫年度)。

2) △は平年より早、短、少を表す。

3) 倒伏程度：成熟期における倒伏程度。

2. 春まき小麦 良

平成19年11月20日(最終)

事由：融雪剤使用圃場の根雪終は平年より4日早い3月26日であった。播種期は平年より2日遅い4月18日であった。播種後の気温が高めに推移したため、出芽日数はやや短くなり、出芽期は平年より1日遅い5月1日であった。出芽後は全般に気温が高めに推移したため、出穂期は平年より2~3日早まった。7月の気温が平年並みから低く経過したため、その後の登熟はやや緩慢となり、成熟期は両品種とも平年並みの8月2日となった。稈長、穂長、穂数および一穂粒数はほぼ平年並みであったが、登熟期後半の7月中下旬が低温に経過したため、千粒重は両品種とも平年よりかなり重かった。このため、子実重は平年比108~114%の多収となった。リットル重は「ハルユタカ」で平年をやや上回り、「春よ恋」は平年並みであった。子実の充実が良好であったため、外観品質は両品種とも平年を上回った。

項目 \ 年次	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月.日)	4.18	4.16	2	4.18	4.16	2
出芽期 (月.日)	5.01	4.30	1	5.01	4.30	1
出穂期 (月.日)	6.18	6.21	△ 3	6.18	6.20	△ 2
成熟期 (月.日)	8.02	8.02	0	8.02	8.02	0
草丈 (cm)						
5月20日	20.1	21.0	△ 0.9	21.0	20.7	0.3
6月20日	77	78	△ 1	80	80	0
茎数 (本/m ²)						
5月20日	635	530	105	597	550	47
6月20日	698	720	△ 22	654	702	△ 48
成熟期 稈長 (cm)	92	89	3	95	96	△ 1
に 穂長 (cm)	8.3	8.4	△ 0.1	8.6	8.5	0.1
おける 穂数 (本/m ²)	473	474	△ 1	483	489	△ 6
子実重 (kg/10a)	510	472	38	604	528	76
一穂粒数 (粒)	31.2	30.9	0.3	34.4	33.4	1.0
千粒重 (g)	45.3	39.7	5.6	46.7	41.0	5.7
リットル重 (g)	816	802	14	818	816	2
品質 (等級)	1	2中	—	1	2中	—
子実重平年対比 (%)	108	100	8	114	100	14

注1) 平年値は前7か年中、最豊(平成14年)、最凶(平成12年)を除く5か年平均。

一穂粒数は、各反復で有効穂を50穂調査。リットル重は1リットル升による測定。

3. 大豆 不良

平成19年11月20日(最終)

事由：播種期は平年並で、出芽後は好天に恵まれ生育は順調であった。開花期は平年並～4日早く、開花期の主莖長、主莖節数および分枝数はほぼいずれも平年を上回った。しかし、7月中下旬の開花前からの低温と干ばつにより、「トヨムスメ」および「ユウヅル」では着莢数は平年の89%および90%と少なかった。また、8月中旬から9月上旬にかけて高温、干ばつ傾向に推移したため、全ての品種で成熟期は平年より5～9日早くなり登熟期間が短くなった。その結果、着莢数が平年並であった「ツルムスメ」および「スズマル」でも百粒重が平年の90%および80%と軽く子実重は96%および87%と平年を下回った。「トヨムスメ」および「ユウヅル」では、百粒重は平年並～やや重くなったものの、着莢数が少なかったため子実重は89%および86%と平年を下まわった。「トヨムスメ」および「ユウヅル」は裂皮の発生が著しく検査等級は平年並～下回った。全品種においてマメシンクイガの被害粒が目立ち、「スズマル」を除いて裂開粒の発生も見られ屑粒率は平年より多かった。

以上により本年の作況は不良である。

項目	品種名 年次	ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1	5.22	5.23	△ 1
出芽期	(月.日)	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0	6.02	6.02	0
開花期	(月.日)	7.17	7.21	△ 4	7.29	7.29	0	7.14	7.17	△ 3	7.22	7.25	△ 3
成熟期	(月.日)	9.22	9.29	△ 7	10.09	10.14	△ 5	9.20	9.29	△ 9	9.22	9.30	△ 8
主莖長 (cm)	6月20日	13.6	8.5	5.1	12.7	8.8	3.9	15.3	10.3	5.0	9.9	8.0	1.9
	7月20日	51.9	47.1	4.8	46.5	43.3	3.2	56.8	50.7	6.1	45.3	38.5	6.8
	8月20日	59.9	57.4	2.5	88.8	84.1	4.7	62.2	60.1	2.1	69.7	70.6	△ 0.9
	9月20日	57.7	57.9	△ 0.2	85.4	84.4	1.0	60.4	59.8	0.6	71.5	71.6	△ 0.1
	成熟期	57.7	57.8	△ 0.1	87.9	84.9	3.0	60.4	59.7	0.7	71.5	68.9	2.6
主莖節数 (節)	6月20日	3.9	3.4	0.5	3.4	3.2	0.2	3.3	3.0	0.3	4.0	3.4	0.6
	7月20日	11.5	10.9	0.6	10.9	10.7	0.2	10.1	9.8	0.3	11.6	10.3	1.3
	8月20日	13.6	12.1	1.5	16.3	15.7	0.6	10.2	10.4	△ 0.2	15.5	14.3	1.2
	9月20日	12.0	12.2	△ 0.2	15.1	15.8	△ 0.7	9.9	10.4	△ 0.5	14.3	14.3	0.0
	成熟期	12.0	12.1	△ 0.1	16.1	16.0	0.1	9.9	10.5	△ 0.6	14.3	14.3	0.0
分枝数 (本/株)	7月20日	7.1	6.1	1.0	4.3	4.1	0.2	5.7	6.2	△ 0.5	9.0	7.4	1.6
	8月20日	6.9	6.2	0.7	5.0	4.7	0.3	6.5	6.3	0.2	12.4	10.9	1.5
	9月20日	5.8	5.7	0.1	3.0	4.3	△ 1.3	5.2	5.8	△ 0.6	10.4	10.4	0.0
	成熟期	5.8	5.9	△ 0.1	3.7	3.8	△ 0.1	5.2	5.8	△ 0.6	10.4	9.9	0.5
着莢数 (莢/株)	8月20日	53.9	54.1	△ 0.2	39.9	42.6	△ 2.7	59.6	69.6	△ 10.0	164.8	140.1	24.7
	9月20日	53.2	51.7	1.5	46.9	55.6	△ 8.7	58.5	65.5	△ 7.0	128.6	120.9	7.7
	成熟期	53.2	51.7	1.5	48.7	55.0	△ 6.3	58.5	65.2	△ 6.7	128.6	121.2	7.4
一莢内粒数	1.72	1.83	△ 0.11	1.64	1.74	△ 0.10	1.79	1.84	△ 0.05	2.39	2.43	△ 0.04	
子実重 (kg/10a)	324	337	△ 13	288	333	△ 45	348	392	△ 44	289	332	△ 43	
百粒重 (g)	41.7	46.2	△ 4.5	47.1	44.0	3.1	38.6	39.2	△ 0.6	12.2	15.2	△ 3.0	
屑粒率 (%)	4.8	2.3	2.5	6.6	2.8	3.8	4.3	1.8	2.5	2.6	1.6	1.0	
品質 (等級)		3上			3下			3下		2中			
子実重平年対比 (%)		96	100		86	100		89	100		87	100	

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均で「スズマル」のみ

前6か年の最凶最豊を除く4か年平均を平年とし参考値を示す。

注2) 「ツルムスメ」、「トヨムスメ」、「スズマル」は9月作況の調査日と成熟期が近接しているため

9月作況の調査値をもって成熟期調査値とした。

注3) 子実重および百粒重は子実水分15%換算値。

4. 小豆 良

平成19年11月20日(最終)

事由：播種期は平年より3日早かった。その後気温は平年並みに経過し、降雨もあったことから出芽は順調で、出芽期は平年より5日早い6月7日であった。生育期間中好天に経過したことから、生育は順調で、開花期の主茎長、主茎節数および分枝数はいずれも平年を上回った。開花期は平年並の7月25日であった。7月中旬以降低温であったが、8月に入り高温に経過したため、開花期以降も順調に生育した。8月中旬から9月上旬にかけて降雨がなく、干ばつ傾向に推移したため成熟は進み、成熟期は平年より5日早い9月5日であった。成熟期における主茎長、主茎節数および着莢数はいずれも平年を上回った。成熟期は平年より5日早かった。子実重は平年を上回り、平年対比114%と多収であった。平年に比べ百粒重はやや小さく、屑粒率は少なかった。検査等級は平年並みであった。
 以上により、本年の作況は良である。

品種名		エリモシヨウズ		
		本年	平年	比較
項目	年次			
播種期	(月.日)	5.23	5.26	△3
出芽期	(月.日)	6.07	6.12	△5
開花期	(月.日)	7.25	7.25	0
成熟期	(月.日)	9.05	9.10	△5
主茎長 (cm)	6月20日	5.8	3.6	2.2
	7月20日	26.3	19.7	6.6
	8月20日	82.7	57.1	25.6
	成熟期	84.6	59.0	25.6
主茎節数 (節)	6月20日	2.6	1.3	1.3
	7月20日	9.9	7.8	2.1
	8月20日	13.3	12.9	0.4
	成熟期	13.6	12.8	0.8
分枝数 (本/株)	7月20日	7.2	3.5	3.7
	8月20日	7.9	4.4	3.5
	成熟期	6.9	3.8	3.1
着莢数 (莢/株)	8月20日	66.9	55.0	11.9
	成熟期	64.4	48.1	16.3
一莢内粒数		5.18	6.30	△1.12
子実重	(kg/10a)	345	303	42
百粒重	(g)	12.4	13.2	△0.8
屑粒率	(g)	3.3	6.6	△3.3
品質	(等級)	3中	3中	—
子実重平年対比	(%)	114	100	

5. ばれいしょ 良

平成19年11月20日(最終)

事由：本年は融雪期が平年より4日早く、植付期は平年より2日早まった。5月がやや低温傾向であったため萌芽期は平年より1日遅れた。6月に入り好天に経過し、6月20日時点の茎長及び茎数は平年をやや下回ったが、開花始は平年より早まった。7月の低温傾向により塊茎の肥大は順調であった。8月下旬の最低気温が低めに推移したことから枯凋の進展は緩慢となり、枯凋期は平年より11日遅くなった。

枯凋期における収量調査では、1株あたり上いも数は平年よりやや少なかったものの、塊茎の肥大が良かったため上いも平均一個重は平年より32%大きい99gとなった。でん粉価はやや低めであるが、上いも重は平年を21%、中以上いも重では40%それぞれ上回った。

以上により、本年の作況は良である。

品種名		男爵薯		
項目 \ 年次		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	5.01	5.03	△ 2
萌芽期	(月.日)	5.26	5.25	1
開花始	(月.日)	6.21	6.23	△ 2
枯凋期	(月.日)	8.31	8.20	11
茎長	6月20日	30	33	△ 3
(cm)	7月20日	39	42	△ 3
茎数	6月20日	3.9	5.2	-1.3
(本/株)	7月20日	5.3	5.1	0.2
8月20日における				
上いも数	(個/株)	11.3	13.5	△ 2.2
上いも平均一個重(g)		94	75	19
上いも重	(kg/10a)	4698	4439	259
でん粉価	(%)	13.9	16.0	△ 2.1
枯凋期における				
上いも数	(個/株)	12.3	13.0	△ 0.7
上いも平均一個重(g)		99	75	24
上いも重	(kg/10a)	5410	4457	953
中以上いも重(kg/10a)		4824	3448	1376
でん粉価	(%)	15.2	16.0	△ 0.8
上いも重平年対比	(%)	121	100	21
中以上いも重	〃 (%)	140	100	40
でん粉価	〃 (%)	95	100	△ 5

注) 平年値は前7か年中、平成12年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は21g以上、「中以上いも」は61g以上のいもである。

6. 中央農試作況報告について

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。

7. 参考資料

作況指数(収量平年比)と作柄の判定基準 (農林水産省の統計基準)

作況指数	90～	91～94	95～98	99～101	102～105	106～
水稲作柄	著しい不良	不良	やや不良	平年並	やや良	良
畑作物作柄	不良		やや不良	平年並	やや良	良